

# まちの将来を考える — 市町村合併 —



6月から市町村合併問題について特集を掲載していますが、これらの広報やまちづくりトークなどで、町民の皆様から色々なご意見やご質問をいただいています。今月の「市町村合併を考えてみよう」では、これまでいただいた質問にお答えします。

**Q** 富良野沿線の5市町村で「市町村合併研究会」ができたという新聞報道されましたが、何を研究するのですか。

**A** 富良野沿線の5市町村による「市町村合併研究会」が、10月15日発足しました。この研究会は、合併を前提とした研究会ではなく、平成17年3月に迫っている市町村合併特例法の期限を見据えて、「合併しなかった場合」「合併した場合」の将来の姿を予測し、沿線5市町村の住民の皆様に情報提供するための研究を進めることを目的として発足しました。

次の3つのことについて研究する予定で、5市町村の住民皆様に、ていませう同じ情報をお知らせすることができるようになると考えます。

現在の5市町村の状況をお互いに認識し、税金や公共料金、公共施設の整備状況など皆さんの生活に関係のある事項を比較検討する。

合併しなかった場合の各市町村の姿を予測し、お互いに情報を共有する。  
5市町村が合併した場合の将来的な予測をする。

次ページへつづく

**Q** 「合併した場合は、効率的な事務事業が図られる」というのが、

実際は人員を削減することであり、行政サービスも制約されると思つ。歳出を抑制すれば痛みを伴うが、厳しい雇用状況で解雇された人の雇用先はどうなるのか、これから協議では遅いと思つ。

**A** 例えば、富良野沿線5市町村が合併した場合、北海道ホームページで公表しているのシミュレーションによると、5市町村の職員合計は、97人(平成12年の人数)になります。類似団体である滝川市の職員数は89人です。職種などを全く考慮しなければ、おおよそ100人職員が少なくとも仕事ができると考えられます。

職員数を減らし、適正な職員数にする方法としては、定年退職した人より、新しい職員を少なく採用するという方法が一般的です。また、早期退職制度など強制的にならないものなども考えられます。

合併特例法による10年間の交付税の算定基準が維持されている間に、徐々に適正な職員数にすることが望ましいと考えられます。

**Q** 近隣市町村の歳入(収入)状況等の資料を閲覧できるようにしてほしい。

**A** 現在、皆さんに示すことのできる資料としては、北海道が公開している「市町村財政シミュレーション」があります。このシミュレーションは道内の市町村を選択し、組み合わせ、合併した場合の平成32年までの財政を予測したものです。

町では、上富良野町・中富良野町・富良野市・南富良野町・占冠村の5市町村のパターンで印刷した冊子を役場一階の町民ホールにある町政情報提供コーナーに置いて、自由に閲覧できるようにしてありますのでご利用ください。

今月号では、そのうちの市町村プロフィール(表1)を紹介します。

**Q** 生活に密着した具体的な情報を教えてほしい。

**A** 上下水道料金・国民健康保険料(税)・介護保険料について、道が公開したシミュレーションを使って近隣7市町村の比較をしてみましょう。(表2) 例えば、水道料金について考えてみ

ると、上富良野町は、沿線5市町村で一番高い1千826円(10立方メートル当たり)となっています。富良野沿線5市町村の平均が、1千296円で530円ほど上富良野町の方が高くなっています。合併した場合、水源の位置や、供給先までの距離、施設の規模など、色々な要因で、水道料金が変わると考えられますが、現在の水道料金が5市町村の平均を上回っていることから、大幅に水道料金が上がることはないと考えられます。

**Q** 富良野市や旭川市で働いたり、学校に通っている人が相当います。富良野方面だけでなく、旭川市などとの合併も考えたほうがよいのではないですか？

**A** 通勤通学について、富良野沿線5市町村と隣の美瑛町、旭川市の7市町村間で人の動きをみてみましょう。

平成7年に行った国勢調査では、1千146人の方が、他の6市町村に通勤又は通学していて、7千791人の通勤通学対象者のうち、14.7%になります。反対に、70人の方が、他の6市町村から働きに来たり、学校に通ったりしている実態です。(図1)

通院については、938人、35.7%の方が、上富良野町外の病院に通っている実態で、旭川市18.8%、富良野市13.7%とほとんどを占め、通院に関しては、富良野市よりも旭川市の方が高い割合になっています。逆に、上富良野町へ通院している方は、美瑛町から65人(1.7%)となっています。(図2)

このように、通勤・通学・通院のデータでは、富良野市や旭川市とのつながりは、大変大きなものであることがわかります。

現在、合併した場合の例として、富良野沿線5市町村を想定して紹介することが多いのですが、この5市町村の組み合わせは、道が示した合併パターンであり、必ずしもこのパターンで合併しなければならないというものではありません。今回お知らせした通勤・通学・通院など人の動きの他、行政のつながり、歴史など、様々な要因を考えながら、市町村合併について考えていきたいと考えています。

市町村合併については、町でも色々試行錯誤しながら研究を行っている段階ですが、できるだけ、多くの方からご意見をいただきたいと考えています。いろいろな質問にも、できる限りお答えしていきたいと思っておりますので、ご質問やご意見をお寄せください。

企画調整課 振興係 ☎6980

(表1) 市町村プロフィール

	上富良野	中富良野	富良野	南富良野	占冠	合計	旭川	美瑛
人口 (H12)	12,809人	5,833人	26,112人	3,236人	1,873人	49,863人	359,536人	11,902人
面積 (km <sup>2</sup> )	237.18km <sup>2</sup>	108.7km <sup>2</sup>	600.83km <sup>2</sup>	665.53km <sup>2</sup>	571.33km <sup>2</sup>	2183.57km <sup>2</sup>	747.6km <sup>2</sup>	677.16km <sup>2</sup>
高齢化率 (%)	18.6%	24.2%	21.3%	24.1%	15.4%		18.3%	26.5%
歳入 (百万円)	9,661	6,650	15,113	4,945	3,094	39,463	169,236	10389
歳出 (百万円)	9,575	6,596	14,886	4,931	2,993	38,961	167,390	10,220
積立金残高 (百万円)	1,926	2,076	2,635	2,173	1,096	9,906	8,317	1,636
地方債残高 (百万円)	9,077	7,423	11,526	6,391	2,974	37,391	171,083	13,469

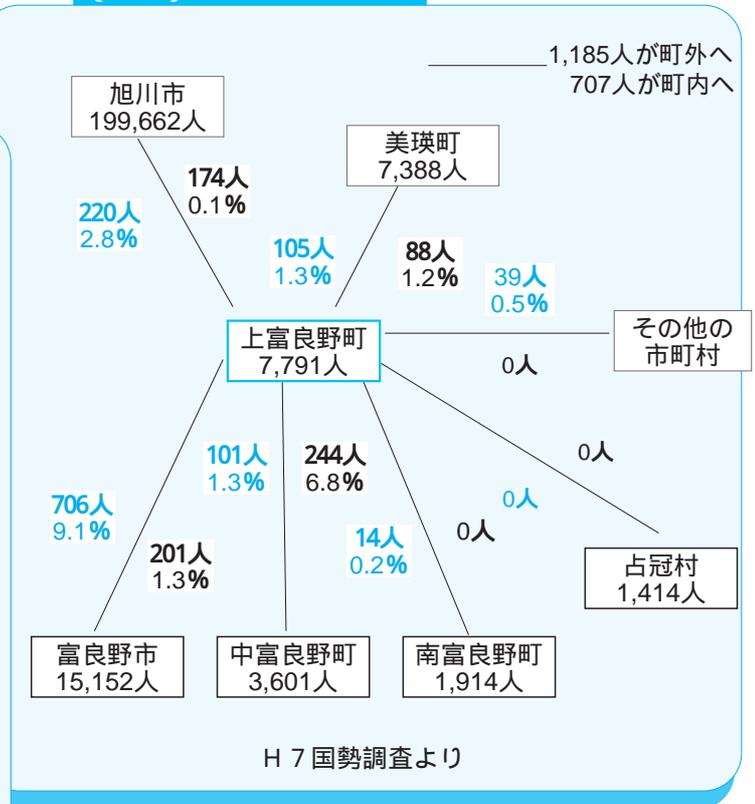
平成12年度国勢調査  
平成13年度全国都道府県市区町村別面積調  
平成12年度地方財政状況調査  
平成10年～12年度地方公営企業決算状況調査

(表2) 公共料金などの比較

	上富良野	中富良野	富良野	南富良野	占冠	平均	差	旭川	美瑛
水道	1,826	1,133	1,452	1,180	890	1,296	530	1,371	2,058
下水道	2,800	2,230	2,966	1,740	1,900	2,327	473	2,811	2,644
国保	159,000	182,000	164,000	124,000	117,000	149,380	9,620	124,300	162,000
介護	3,000	3,200	2,800	3,566	2,700	3,053	-53	3,116	3,600

水道料金：10立方メートル当り（平成10年～12年度地方公営企業決算状況調査）  
下水道料金：20立方メートル（平成10年～12年度地方公営企業決算状況調査）  
国民健康保険料：加入世帯数あたりの年額（平成10年～12年度地方財政状況調査）  
介護保険料：基準額（第3段階）（平成12年度）

(図1) 通勤・通学者数



(図2) 通院者数

